

海外アカデミック・ディスカッション	
韓国重要無形文化財 第12号 晋州剣舞でのワークショップ	
鄭 恵珍	比較社会文化学専攻
期間	2008年8月5日～8月19日
場所	韓国、慶尚南道晋州
研究交流プログラム	韓国重要無形文化財 第12号 晋州剣舞保存会でのワークショップ
施設	韓国重要無形文化財 第12号 晋州剣舞保存会

筆者が海外アカデミック・ディスカッションを実施した研究機関は、「韓国重要無形文化財第12号晋州剣舞保存会」である。‘晋州剣舞’は筆者の博士後期課程における研究テーマである‘韓国女妓剣舞に関する研究－晋州剣舞と平壤剣舞をその事例として’（仮題）の研究対象の一つである。

‘晋州剣舞’は韓国重要無形文化財として指定されている7つの舞踊演目のうち、韓国舞踊史では最もその歴史が古いとされ、舞踊部門では第1号として文化財に指定（1967年）された演目であるため、‘晋州剣舞’に関する先行研究は少なくはない。しかし、芸能実演や伝承面については、僧舞・サルプリ・太平舞のような他の6つの国家指定文化財演目が、ソウルやソウル近隣地域を中心に保存会が運営され、舞踊専攻学生・研究者を対象とする伝教教育（ワークショップ）が定期的にも実施されている一方、晋州剣舞の場合は、距離的にもソウルから離れているため（バスで約5時間）、国・市立の舞踊団や伝教課程登録者を対象とする伝教教育のみが行われている状況である。一般人を対象とする定期ワークショップが実施されていないため、外部の人間が‘晋州剣舞’を習うのは、多少困難な状況であった。しかし、理論と実技両面での晋州剣舞の研究者を育てたいとの晋州剣舞芸能保有者（成季玉、1927年－2008.1.4他界）の意向により、筆者は、2008年3月に特例として保有者と伝授助教による第1次伝承教育の個人指導を受けさせていただいた。そして、今回、この海外アカデミック・ディスカッションの制度を利用して、2度目の‘晋州剣舞’の伝教教育を受けることができた。

筆者は、今回のワークショップに参加することにより、晋州剣舞の理論的背景を探求した先行研究では明らかにされていない、伝統芸能の「実演面」での晋州剣舞の特徴を明らかにすることを目的として調査を行った。その結果、文献や先行研究には言及されている晋州剣舞全般の舞踊史的価値以外に、芸能実演過程の全般的流れや宴行動作、晋州剣舞の伝承系譜、宮中舞踊（呈才）から郷土化される過程で変化されたと推測される舞踊動作・用語、そして民間宴行化を巡る背景などが分かってきた。

当初は、本ワークショップにおいて晋州剣舞の機能保有者へのインタビューを行い、晋州剣舞芸能保有者による実演伝承教育も受ける予定にしていた。しかし、保有者の持病による入院のため、晋州剣舞の実演伝承教育のみが伝承教育助教であるユーヨンヒ氏の指導の下に、伝授者3人の協力を得て行われた（晋州剣舞は8人が演じる8剣舞であるため対舞役が必要である）。

本ワークショップの対象であった晋州剣舞は平壤剣舞と共に、韓国女妓剣舞の伝承を探る事例として重要であり、博士論文の中でとりあげる予定である。晋州剣舞は、他地域に伝授されている剣舞と比べ伝承課程が比較的明らかであり、また、現在は伝承が途絶えているとされる宮中剣舞と最も近い宴行手順を用いている。これらのことから、晋州剣舞は、韓国における女妓剣舞の歴史的由来や、宮中剣舞、そして朝鮮王朝期、宮中と民間で幅広く宴行された剣舞の民間宴行化過程を明らかにする根拠として重要な位置を示すと考えられる。

現時点では、宮中剣舞や晋州剣舞を中心に文献記録調査やフィールドワークを進めているため、比較事例である平壤剣舞に関しては、今後、研究を進めていく予定である。また、修士論文の研究対象であった在日朝鮮人の芸術グループである〈金剛山歌劇団〉の協力を得て、平壤剣舞の研究を進める必要があると考えている。

朝鮮王朝期の晋州地域には、外国に発つ朝鮮の使臣や朝鮮を尋ねて来た外国使臣のための使客宴、地方役人の赴任歓迎宴、各種官辺の公事宴などを管長していた教坊が設置されており、晋州教坊は主に日本からの使臣接待を担当していたため、日本での資料調査も今後の課題として残されている。

今回行ったワークショップに参加することによって

得られた成果については、下記の研究会および学会において口頭発表を行った。

1. 鄭恵珍「朝鮮王朝における剣器舞とその記録—王室記録文献儀軌を中心に—」表象芸術論領域研究発表会、2008年10月8日（於：お茶の水女子大学）
<http://www.dc.ocha.ac.jp/comparative-cultures/arts/20081110.html>

2. 鄭恵珍「朝鮮王朝、地方教坊における女妓剣舞—晋州地域の教坊と券番での活動を中心に」、第60回舞踊学会大会、2008年12月6日（於：お茶の水女子大学）

また、2008年4月4日、東京大学韓国・朝鮮文化研究会の例会において「韓国における女妓剣舞歴史と伝承」というテーマで発表する予定である。

ジョン ヘジン／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

【指導教員のコメント】

鄭さんは、昨年度より、晋州剣舞の現地調査を行っている。晋州剣舞は、韓国重要無形文化財として指定されている7つの舞踊演目のうち、韓国舞踊史上最もその歴史が古い韓国重要無形文化財であり、朝鮮の舞踊の起源をたどる上でも大変重要である。今回、大学院GPのプログラムを利用して、アカデミックディスカッションとして、2度目の調査を行う機会を与えていただいた。晋州剣舞は、歴史的研究が数多く行われているが、舞踊実践そのものを扱った研究は少ないため、自らも舞踊家として舞踊実践を行う鄭さんの研究は興味深い。直伝の伝承者が亡くなられてしまったのは、研究調査においては大きな痛手であるが、ワークショップにおいて後継者の方々から貴重な情報を得られたようである。日本の在日朝鮮人の中で伝承されている剣舞やその記録、および日本の宮廷（宮内庁）と朝鮮の宮廷との交流に関する資料についても検討を行っており、国際日本学という視点からも成果が期待できる研究である。

（お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 准教授 中村 美奈子）